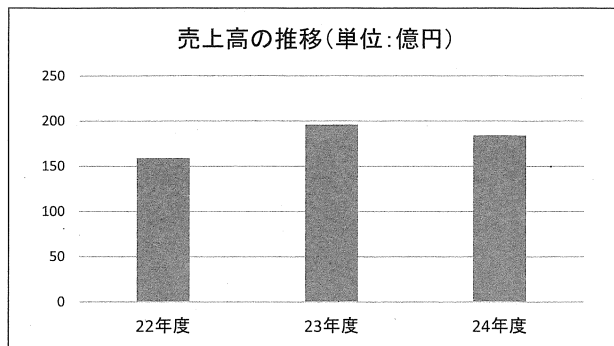




大手ファブ トップインタビュー⑨

2025年 わが社の 経営戦略

高田機工



中村 達郎社長

——2024年度業績は。中村 2025年3月期の売上高は185億円、経常利益は3億6000万円となった。新設橋梁の発注量減少、前々期以降の橋梁部門の受注伸び悩みなどが実績全体に影響している。また、受注高は橋梁事業が110億円、鉄構事業が31億円となり、こちらは橋梁事業が微増、鉄構事業が微減となっている。

——今年度の見通しは。

中村 今期(26年3月期)の売上高は175億円、経常利益は3億5000万円と、いずれも前期よりやや減少する見通し。また、受注活動は野洲栗東バイパス七間場高架橋鋼上部工事など近畿地方整備局を中心に受注が進んでおり、下半期は一定程度の成果を見込めそうだ。さらに、新設橋梁の発注量減少などの変化を受けて、橋梁部門で保全工事、鉄構部門で大空間向けのトラス構造物の受注をそれぞれ強化していく。

——受注強化のための取り組みは。

中村 保全工事は「維持修繕工事包括契約方式」による阪神高速3号神戸線の上部耐震補強工事(2020—1—神・西宮)などの包括的な保全工事も含めた施工実績がある。このように、後発工事も含めた包括的な保全工事の受注をさらに強化していく。

売上目標としては、将来的に現在の倍の数字である30億円にまで引き上げていきたい。

また昨年、鉄構本部に立ち上げた「空間創造部」は東京を拠点に、当社の独自技術である「生研トラス」による大空間建築物の提案を進めている。政府の「防衛力整備計画」により、今後は航空

機格納庫など防衛関連施設の建設が進む見通しであることから、まずはこうした施設を中心に「生研トラス」の提案を強化し、実績を重ねていきたい。

——その他の取り組みは。

中村 新設鋼橋の発注量減少など需要環境の変化を受け、DX推進により生産部門の効率化を図り、その分の人的リソースを成長事業に割り当てていく。具体的には3D測量技術による部材計測で橋桁の地組みをシミュレーションに転換できる体制を今年度中に構築していく。このほか、橋梁の施工管理システム「DXツインビュー」や、桁架設誘導システム「ブリッジ・コンパス」を積極的に活用する。また、橋梁向けに自社製品の開発・販売も手掛けているが、高力ボルトの腐食を抑えるボルトキャップ「SHELLOPO NS」(シェルポンズ)に

遅れ破壊落下対策機能を追加した。第三者への落下物対策としての採用を増やしていく。

——設備投資について。

中村 これまで老朽化に伴う設備更新や岸壁の修繕工事を進めてきたが、新たに事業継続計画(BCP)の一環として、和歌山工場の駐車場に太陽光発電システム付きのカーポートを設置した。発電した電力は工場事務所棟内で自家消費するもので、蓄電池を使って電力需要のピーク時に活用することで、コスト削減と電力負荷平準化を進める。また、停電時には事務所棟の電源としても活用する。

保全工事の売上30億円へ トラス構造物の受注強化も

この駐車場は南海トラフ地震など災害時の社員の避難場所としている。災害時、工場勤務の200人以上が避難した際、電力を賄えるように非常用コンセントを整備した。電気自動車向けの充電設備も整備しており、

中村 人材の確保と育成が経営上、最も重要な課題と認識している。社員がやりがいを感じて働き続けられるよう、本人の希望を踏まえた配属や、有給休暇の取得、産後休暇、育児休暇の取得なども推奨するほか、ベースアップ等にも取り組む。近年では現場で女性社員が活躍する機会も増えており、働きやすい環境の整備に引き続き取り組む。(聞き手・八木香織、文中敬称略)

今後は社用車に電気自動車
の採用を検討していく。

——課題への対策は。

中村 人材の確保と育成が経営上、最も重要な課題と認識している。社員がやりがいを感じて働き続けられるよう、本人の希望を踏まえた配属や、有給休暇の取得、産後休暇、育児休暇の取得なども推奨するほか、ベースアップ等にも取り組む。近年では現場で女性社員が活躍する機会も増えており、働きやすい環境の整備に引き続き取り組む。(聞き手・八木香織、文中敬称略)



国道4号箱堤高架橋上部工工事